

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 平成28年10月18日(火)第5校時
学 校 名 千葉市立若松中学校
展 開 学 級 3年2組
展 開 場 所 被服室
授 業 者 平野 優子

1 題材名 「幼児の生活と家族」A（3）

2 題材について

〔題材観〕

核家族化、少子高齢化、家族形態の多様化など社会は絶えず変化している。人間関係や地域コミュニティの希薄化により、これまでのように家庭や地域の中で人とかかわる経験を十分にできず、人間関係を上手に築くことができない中学生が多くなってきている。中学生が乳幼児とかかわる機会が減り、教科書だけでは幼児について理解が難しい状況が見られる。このような状況において、幼児と触れ合う等の実践的・体験的活動を通して、幼児や自分の成長についての理解を深め、幼児に関心をもち、自らかかわる力と態度を育てることが重要である。また、幼児の成長を支える家族やその家族を支える地域について学習し、自分の家庭だけでなく様々な家庭の価値観や考え方に気づき、社会に対応し課題をもって家庭生活をよりよくしようとする能力と態度を育てたい。

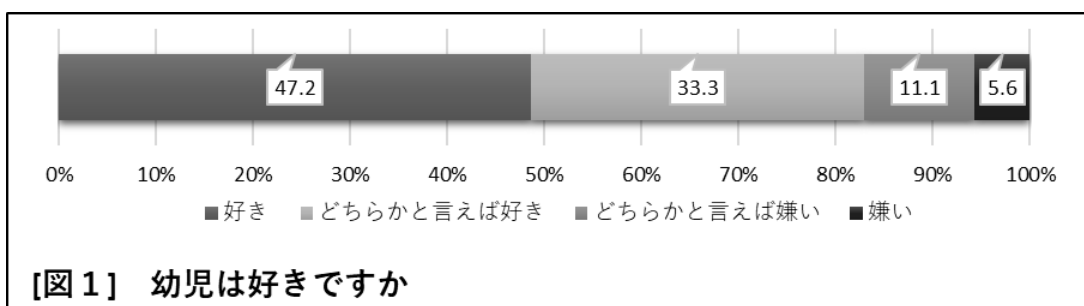
参考) 平成25年国民生活基礎調査の結果から「グラフでみる世帯の状況」

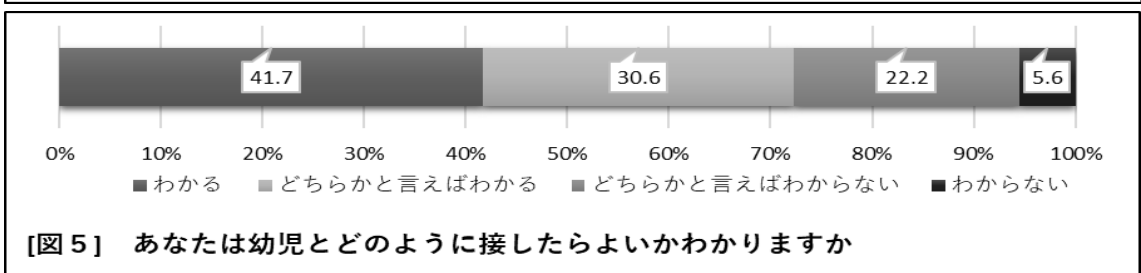
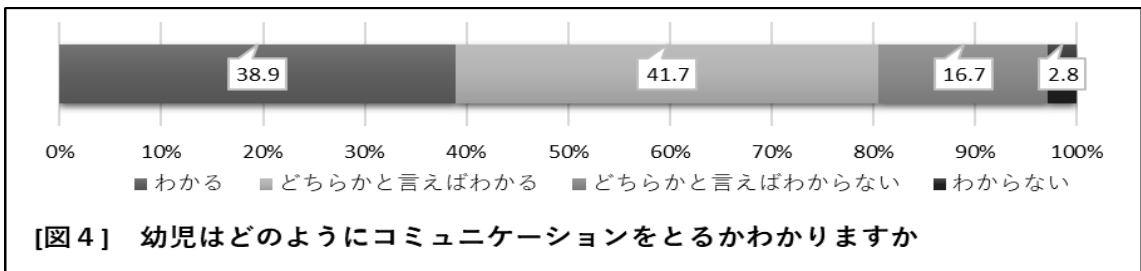
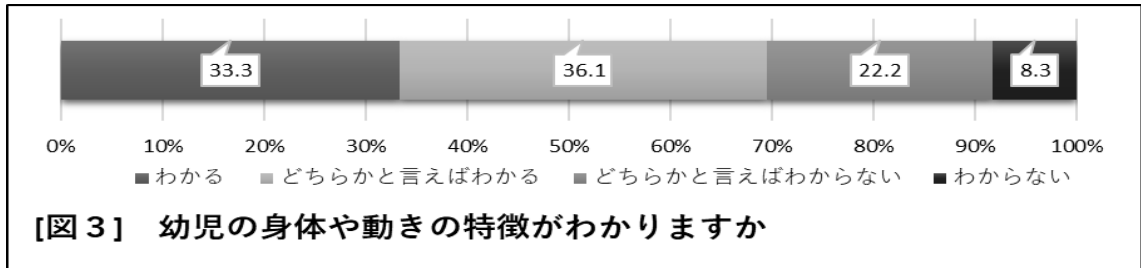
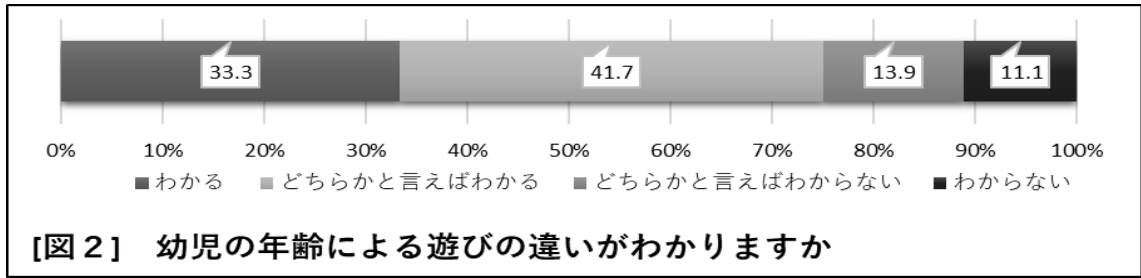
厚生労働省大臣官房統計情報部

〔生徒観〕（3年2組 男子16名、女子20名）

アンケートの結果より、「幼児は好きである」「どちらかと言えば好きである」と回答した生徒が29人で、幼児を好意的にとらえている生徒が約80%であった。しかし、「幼児は嫌い・苦手である」と回答した生徒も約5.5%いた。また、幼児の特徴については、教室での授業を終えた段階で「わかる」と回答した生徒は35～40%程度で、「どちらかと言えばわかる」と回答した生徒も35～40%程度であった。過半数以上の生徒は幼児についてある程度の知識を身に付けていると思っている。しかし、幼児とどのようにかかわればよいか分かる生徒は、「どちらかといえばわかる」と思っている生徒を含めても半数以下であった。

このような実態から、実際に幼児と触れ合うことにより、経験や実感を伴い幼児を理解することにより幼児への関心を高め、幼児とかかわる実践的な力を身に付けさせることが重要であると考える。





〔指導観〕

本題材では、幼児と触れ合う活動や遊び道具の製作を中心として、幼児への関心を高め、幼児の発達や生活とそれを支える家族や遊びについて理解を深めさせるようにした。まず、遊びを体験や幼児の様子がわかるDVDを視聴することで、幼児の生活や発達の概要を知り、幼児との触れ合い体験に臨めるようにした。本時では、触れ合う活動の後に振り返りとして話し合いを行うことにより、観察内容や体験について共有し、さらに幼児の理解を深め、自分なりに幼児とのかかわり方を考えられるようにした。また、触れ合い活動での経験を遊び道具の製作に活かせるよう題材を工夫した。

3 題材の目標

幼児と触れ合う活動や遊び道具の製作など実践的・体験的な学習活動を通して、幼児に関心をもたせる。また、幼児の心身の発達と生活、それを支える家族や遊びの意義について理解し、自分なりに幼児とのよりよいかかわり方を工夫し実践しようとする。

4 題材の評価規準

- ・ 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。
【知識・理解】
- ・ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解している。
【関心・意欲・態度】【工夫・創造】【知識・理解】
- ・ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できる。
【関心・意欲・態度】【工夫・創造】【技能】
- ・ 家族又は幼児の生活に関心をもち、課題を持って家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践することができる。
【関心・意欲・態度】【工夫・創造】

5 指導と評価の計画 3年次 11時間

時間	学習内容	評価規準・評価方法	関	創	技	知
1 ・ 2	○幼児の生活と遊び ・ 幼児の生活の特徴 ・ 遊びの意義と特徴	・ 幼児の一日や遊びを知る活動を通して、幼児の生活や遊びに関心をもっている。 【関】（ワークシート） ・ 幼児にとっての遊びの意義について理解している。【知】（テスト）	○			○
3 ・ 4	○幼児の心身の発達 ・ 幼児の心身の発達（DVD） ・ 集団保育	・ 幼児の心身の発達や遊びについて観点に基づいて視聴し、整理することができる。【技】（ワークシート） ・ 幼児の心身の発達の特徴について理解している。【知】（テスト）			○	○
5	○遊べる座布団の製作① ・ 計画を立てる	・ 遊び道具の製作などの活動を通して、幼児に関心をもっている。【関】（計画表） ・ 幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している。 【工】（行動観察・計画表）	○	○		
6	○保育実習事前指導 ・ 幼児とのかかわり方 ・ 保育実習の流れと注意事項 ・ 観察の観点 ・ 個人課題の設定	・ 幼児について関心をもち、観察や触れ合いを適切に行おうとしている。【関】（ワークシート） ・ 幼児についての疑問点や課題を見付け、その解決を目指して計画を工夫している。【工】（ワークシート）	○	○		

7	○保育実習 ・幼児との触れ合い・観察	・幼児と触れ合う活動を通して、幼児に関心をもち適切にかかわろうとしている。 【関】（行動観察、ワークシート） ・幼児の心身の発達や遊びについて観点に基づいて観察し、整理することができる。【技】（ワークシート） ・幼児の心身の発達に応じたかかわり方を工夫している。【工】（行動観察、ワークシート）	○	○	○	
8 本時	○保育実習を振り返る ・個人の課題への振り返り ・観察、体験内容の共有	・幼児と触れ合う活動について振り返り、話し合うことを通して、幼児に関心を持ち、幼児とのかかわり方を考えようとしている。【関】（ワークシート） ・幼児と触れ合う活動の振り返りを通して、自分なりに考えたり、発表したりしている。【工】（ワークシート・発表）	○	○		
9	○幼児の成長と家族・地域 ※A（2）との関連 ・子どもや家族を支える施設 ・家庭生活に必要な仕事とそれを支える施設	・幼児の発達を支える家族の役割について理解している。【知】（テスト） ・家庭生活と地域のかかわりに関心を持ち、地域の人々とかかわりについて話し合うことなどを通して、地域の人々とのつながりの大切さに気付いている。 【関】（ワークシート）	○			○
課外	○座布団のパーツ作り	※細かい部品等は夏季休業中に製作しておく。				
10 ・ 11	○遊べる座布団の製作② ・計画改善と製作	・遊び道具の製作を通して、幼児に関心をもっている。【関】（計画表） ・幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について、保育実習の実践の成果や課題を踏まえて、工夫している。 【工】（行動観察・計画表）	○	○		

6 本時の指導（8／11時間）

（1）小題材名

「保育実習の様子や気付いたことを話し合おう」
 ～幼児のことを知り、幼児とのかかわり方を考えよう～

（2）本時の目標

幼児と触れ合う活動について振り返り、さらに幼児への理解と関心を高め、今後の自分の生活の中で幼児とどのようにかかわればよいか考えることができる。

（3）本時の評価規準

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
おおむね 満足	幼児と触れ合う活動について振り返り、話し合う活動を通して、幼児に関心をもち、幼児とのかかわり方を考えようとしている。	幼児と触れ合う活動の振り返りを通して、自分なりに考えたり、発表したりしている。		

（4）本時の展開 8／11時間

学習 過程	時配	学習活動	教師の指導と支援	●評価（方法）・資料
課 題 を つ か む	3	○保育実習での体験や前時までの学習を思い出す。	・保育園での様子について写真を見せながら振り返らせる。	・ワークシート ・写真
		幼児とはどのようにかかわればよいのだろう		

追究する	1 1	<p>○幼児の様子や施設の様子などについて、経験したことを話し合う。</p> <p>①訪問先の年齢ごとに分かれて話し合う。(10分)</p> <p>0・1歳、2歳、3歳 4歳、5歳グループ</p> <p><観点> 体や行動の特徴 コミュニケーションの取り方 遊び・遊び道具 周囲の人・物の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の記録を参考に、観点ごとに幼児の特徴や出来事について振り返るよう助言する。 ・始めに訪問先の年齢ごとに各観点についてまとめてから、交流ができるようにする。 ・観察内容だけでなく、エピソードなどを具体的に話せるよう促す。 ・気づいたことは簡単に模造紙にまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループ表示 ・模造紙 ・ペン
	1 4	<p>②各年齢が集まるように席を変え、司会者を中心に話し合う。(10分)</p> <p>・4～5人×8班</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容を中心に、全員が、訪問年齢ごとの様子を班員に伝えられるよう助言する。 ・接し方など理解が深まったことを積極的に発言するよう促す。 ・話し合いが上手く進まないグループに助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会原稿

<予想される生徒の回答>

体や行動の特徴 (体の大きさや運動機能、動き)
 同じ年齢でも結構違う、年長は元気いっぱい走るのも速い、ずっと同じことをしていた

コミュニケーションの取り方 (感情表現や言葉など)
 構ってほしいとたたいてくる、5、6歳は何でもよくしゃべる、身振りが大きい

遊び・遊び道具 (遊びの内容や遊び方、人数など)
 0、1歳は口になんでも入れる、5、6歳はルールのある遊びもできる、〇〇でよく遊ぶ

周囲の人・物の様子 (周囲の人の接し方や、ある物)
 しゃがんで笑顔で話しかけていた、ゆっくりわかりやすい言葉で話していた
 子どもの遊びたいようにさせていた、椅子が小さかった

その他
 ずっとだっこをしていて大変だった
 子どもが元気で一日一緒にいるのは楽しいけど大変

深 め る	1 2	○自席に戻り、話し合いを参考に「今後、自分なりに幼児とどのようにかかわればよいか」を考えまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを通しての学びを踏まえて、かかわり方を具体的に考えるよう助言する。 ・記入できていない生徒には、板書やワークシートを参考にするよう助言する。 ・模造紙を張っておき、同年齢での話し合いのことももう一度思い出せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入済みの模造紙 ・ワークシート ●幼児と触れ合う活動の振り返りを通して、自分なりに考えたり、発表したりしている。 【工】(ワークシート・発表)
<p><予想される生徒の回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは、幼児が何を考えているかわからなくて困ったけれど、話をゆっくり聞いたり、同じ歳でも幼児によって好きな遊びも違うとわかったので、幼児に合わせてかかわろうと思った。 ・今までは、0歳児の様子はわからなかったけれど、今度は年長の幼児だけでなく、音のなるおもちゃを使ったりして幼い幼児ともかかわってみたい。 ・今までは、幼児とかかわる機会がなかったけれど、幼児の様子が少しわかったので、今後は将来に備えて、幼児に積極的に話しかけてみようと思った。 				
ま と め る	7	○発表する(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達には個人差があることや周囲の人の支えがあることに気付かせる。 ・自分の成長も家族やそれに変わる人に支えられてきたことに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児と触れ合う活動について振り返り、話し合う活動を通して、幼児に関心を持ち、幼児とのかかわり方を考えようとしている。 【関】(ワークシート)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">保育実習を振り返り、幼児とのかかわり方を考えることができたか</div>				
	3	○次回の学習内容を確認する。自己評価、感想を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てを支える施設などについて思いさせる。(保育園、幼稚園、ベビーシッター、家事代行など) 	

(5) 本時の評価

幼児と触れ合う活動について振り返り、さらに幼児への理解と関心を高め、今後の自分の生活の中で幼児とどのようにかかわればよいか考えることができたか。